

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	生野区
学校名	大阪市立東小路小学校
学校長名	佐野 健一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立東小路小学校では、第6学年 59名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科の平均正答率は、全国平均より0.8ポイント下回ったが、大阪市平均よりも1ポイント上回った。学習指導要領の内容別では、「読むこと」については、全国平均・大阪市平均ともに下回り、「書くこと」については全国平均より下回り、大阪市平均より上回ったが、「話すこと・聞くこと」においては全国平均・大阪市平均ともに上回る結果であった。

算数科の平均正答率は、全国平均・大阪市平均ともに2ポイント上回った。学習指導要領の領域別に分析すると、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」領域において、すべて全国平均・大阪市平均とともに上回った。ただし、「データの活用」領域では全国平均・大阪市平均とともに下回った。

理科の平均正答率は、全国平均より1.1ポイント下回ったが、大阪市平均よりも1ポイント上回った。学習指導要領の区分・領域別では、A区分の「エネルギー」「粒子」を柱とする領域で、ともに全国平均・大阪市平均ともに下回った。B区分の「地球」を柱とする領域では全国平均より下回り、大阪市平均より上回った。「生命」を柱とする領域のみ全国平均・大阪市平均とともに上回る結果であった。

また、平均無回答率の割合は、国語科・算数科・理科すべてにおいて、全国平均・大阪市平均を下回っており、粘り強く問題に取り組む姿勢がみられる。

一方、児童質問紙の結果では、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」「自分には、よいところがある」の項目の肯定的な回答の割合が、全国平均・大阪市平均とともに1割程度下回っている。しかし、「学校に行くのは楽しい」の項目の肯定的な回答の割合は、全国平均・大阪市平均をともに上回っており、学校生活が充実していることがうかがえる。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

#### [国語]

学習指導要領の内容別の結果をみると、日頃から自分の意見や思いを文章に表す機会を設定することで、「話すこと・聞くこと」において一定の成果を得ることができているといえる。しかし、「情報の取り扱い方に関する事項」については、文章の内容をうまく整理できていない傾向がある。

#### [算数]

学習動画コンテンツ配信事業の「スタディサプリ」を積極的・有効的に活用して、基礎・基本の定着に努めてきた。このことにより、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」の領域については、ほぼ全国平均の水準に達しているといえる。しかし、「データ活用」の領域においては、データを目的別に整理することが難しかったと考えられる。

#### [理科]

物理や化学分野の領域に苦手意識が感じられ、生物や地学分野の領域については、ほぼ全国平均の水準に達しているといえる。理科専科の授業で、集中的に取り組む必要がある。

### 質問調査より

学校教育目標で「ちがいを認め合い、ともに学び支えあえる集団づくり」を掲げ、全校集会で「なかまの木」を作成するなど、自己肯定感を高められるような取組をしているが、「自分にはよいところがある」という項目に否定的な回答の割合が16%を超えており、昨年度より10ポイント近く減っているが、さらに取組を進めていく必要がある。

また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」という項目に肯定的な回答の割合が、全国平均と比べても高い値を維持できていて、さらなる道徳教育・人権教育を推進していく。

## 今後の取組(アクションプラン)

国語科においては、今年度も「日本漢字検定」を4・5年生で実施し、目標をもたせて漢字や熟語の習熟に取り組むことで「言葉の特徴や使い方に関する事項」の力をさらに伸ばせるようにする。また、課題である「情報の取り扱い方に関する事項」については、総合的な学習の時間での取組と関連付けて自分で調べたことをまとめ、プレゼンテーションする機会を積極的に設定していく。

算数科・理科においては、スタディサプリを積極的・有効的に活用して、「個に応じた指導」の充実を図り、「自分で考え、自ら表現する力」の育成に向けて、実践を積み重ねていく。

本校の学校教育目標である「みんなが安心できる居場所のある学校」づくりをめざし、児童会活動を中心にして、児童一人ひとりが学校の一員としてなくてはならない存在であることを、学校生活のあらゆる場面を捉えて取組を進めることで、自己肯定感を高められるように推進していく。